

令和5年11月15日

学 部 長
学 科 主 任 殿
共通教育センター長

学 長

次年度に向けた教育プログラムの点検について（諮問）

このたび、FD委員長から、別添のとおりFD活動報告書の提出がありました。
つきましては、本報告書を参照いただき、学科の教育プログラム責任者である学科主任の先生を中心に教育プログラムの点検を行い、次年度に向けて教育に関し見直す点がありましたら、下記のとおり本職まで報告をお願いします。

記

提出期日 令和5年12月19日（火）

提 出 先 学長室メールアドレス
president@admin.socu.ac.jp

提出方法 添付しました様式に記載をお願いします。

以上

令和 5 年 12 月 20 日

学 長 殿

学部・学科名：工学部・機械工学科
教育プログラム責任者： 吉田和司

令和 6 年度に向けた教育プログラムの改善計画（報告）

このたび、本学科の教育プログラムを点検した結果、下記のとおり教育プログラムを改善することにしましたので、報告いたします。

記

教育プログラムの改善計画

（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの変更、授業科目の変更、授業内容・教育方法の見直し、教育付加価値の向上等自由にご記入ください。）

- ・情報処理技術に関するリテラシー教育を充実させるため、これに関わる授業内容を検討した結果、来年度からコンピュータ演習の講義内容を情報処理技術に関する内容を新たに加えることにした。
- ・学生の考える力（＝考えようとする姿勢）の低下がみられる。この問題への対応策として、各講義においてアクティブラーニングの時間をより多く設け、学生が自ら考える時間を増やす計画である。
- ・推薦入試合格者に課す入学前教育（数学）の内容を、合格者の学力を考慮して来年度からは、他学科と同様に、より基本的な数学Ⅰ、数学Ⅱの内容を加える予定である。

以上

令和5年12月19日

学 長 殿

学部・学科名：工学部・電気工学科
教育プログラム責任者：阿武宏明

令和6年度に向けた教育プログラムの改善計画（報告）

このたび、本学科の教育プログラムを点検した結果、下記のとおり教育プログラムを改善することにしましたので、報告いたします。

記

教育プログラムの改善計画

（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの変更、授業科目の変更、授業内容・教育方法の見直し、教育付加価値の向上等自由にご記入ください。）

電気工学科の独自の取り組みとして、以下の検討を行います。

1. 学科カリキュラムに関する検討事項

・数理DS教育プログラムに関する事項

電気工学科の科目「コンピュータ演習1」、「コンピュータ演習2」は統計・機械学習などAIやデータの活用を担う知識・スキルを習得する授業科目であるため、学生が学習内容を直観的に理解できるように科目名を「データサイエンス演習1」「データサイエンス演習2」へ変更します。

数理DS教育プログラムへの対応から「プログラム基礎」、「プログラミング実習1A」「プログラミング実習1B」で扱う言語をPythonとしています。学生の習熟度の観点から「電気工学実験2」の実験テーマ「ロボット制御」におけるプログラミング言語をPythonへ変更する予定です。

・授業科目の変更

同じ内容のシラバスですが学科間で名称が異なる電気工学科の「一般力学及び演習」・「物理学及び演習」について、科目名を学科間で統一するために、それぞれ科目名を「物理学1・2及び演習」に変更します。

・カリキュラムマップ・カリキュラムツリー

学修簿における学科の学習・教育到達目標に関係する専門分野系とJABEE対応「電気電子工学コース」の関係模式図が分かりにくいものとなっているため修正する予定です。

・JABEE基準の保証

カリキュラムマップ・カリキュラムツリーおよびJABEE認定「電気電子工学コース」カリキュラム表において、学習・教育到達目標の達成によるJABEE基準の保証をより明確にするために、「学習・教育目標に対する関与の程度」における◎印（主体的に含んでいる科目）を複数の目標に設定している科目について、◎印は1つの目標のみに限定し、他の目標は○印（付随的に含んでいる科目）に変更する予定です。

・学科カリキュラム検討会に基づく改善

本学科では毎年1回、学科全教員にて、学科カリキュラム検討会を開催して、専門6区分（材料・エレクトロニクス、エネルギー・制御、コンピュータ・情報通信、実験、電気基礎・回路、その他・必須）に分かれて、カリキュラム改善に向けた議論を行っています。来年度は、その議論に基づいて改善を行う予定です。

2. 学科カリキュラムに関連する資格の充実

・学科の学びに関連する資格の充実を図るため電気通信主任技術者認定校の申請（R5年度）を行いR6年度からの認定を予定しています。

3. 履修者数の少ない科目の関する原因分析と科目の流れ（開講時期）の見直しの検討

インターンシップ・職業体験は別として、学科のカリキュラムの特徴の一つである電気主任等の資格に関係する科目、「電力系統工学」科目が含まれています。この科目は2022年度入学者までは開講学年が4

年生のために資格単位取得要件を満たす4年生履修者がそれほど多くないことが原因の一つと考えられたため、2023年度入学者から3年生から履修できる科目へ変更しました（よって2025年度から3年生の履修が可能です）。「科学英語・発表技術」3年生科目、「メカトロニクス」は4年生科目で、学修ガイダンス等で履修アドバイスしていきます。なお「メカトロニクス」は、学科の専門選択分野で社会ニーズのある分野のために専門選択科目として選択可能なように設定した科目で、履修者は機械工学科の専門選択科目（4年）「メカトロニクス」を受講するものです。「基礎化学」については履修者数が少ないのですが東京理科大学特別編入学制度の事情で開講している科目になります。

4.科目合格率・GPA

科目の合格率指標 65%未満の科目やGPAが低い科目（1.0未満）の科目については科目担当者において分析し改善の検討いただきR5年度に改善を実施しています。また、上記科目に限らず各教員が学生の理解度を高める教授方向や成績評価に関して研究授業やFDセミナーなどのFD活動を効果的に活用して学科において議論・情報共有を継続していきます。

学科の科目合格率について、対象科目に「ドイツ語1」が含まれていますが、学科担当科目ではないため対応検討は難しいと思われます。科目担当の共通教育センターにて検討いただくのが望ましいと思われます。

5.教育用フォフトウェアの活用

FD報告書 p34 教育用ソフトウェア一覧（令和4年度）には記載されていませんが、回路シミュレーションソフトのTINAを大学で導入いただいております学科の回路関係科目・演習・学生実験・卒業研究等で活用しておりますが、今後も有効に活用していきます。

令和 5 年 11 月 23 日

学 長 殿

学部・学科名：工学部 応用化学科
教育プログラム責任者：白石幸英

令和6年度に向けた教育プログラムの改善計画（報告）

このたび、本学科の教育プログラムを点検した結果、下記のとおり教育プログラムを改善することにしましたので、報告いたします。

記

教育プログラムの改善計画
(ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの変更、授業科目の変更、授業内容・教育方法の見直し、教育付加価値の向上等自由にご記入ください。)
下記に現状認識も踏まえて、箇条書きに記す。()内のページはFD活動報告書の該当ページ。
【授業アンケート (P7-9)】 → <u>継続中</u> 。 → 回答率 48.8%、学生への複数回の呼びかけで回収率向上キャンペーンを実施継続中。
【合格率指標 65%未満の科目 (P19)】 → <u>改善検討</u> 。 → 昨年度、該当科目なしであったが、本年度「ドイツ語」が AM, AE ともに 65% 未満。共通教育センターに改善要望した。
【成績不振学生のケア (P20-22)】 → 実数は横ばい。昨年度から学科会議でも情報共有化しているが、改善が見られない。ピアポートなどの多様な窓口の復活を希望する。
【受講者僅少科目 (P25-26)】 → <u>改善検討</u> 。 ・経営工学 (1 → 4 名) → 廃止 or 大学院科目に変更を来年度検討予定。 ・生物物理学 (11 → 12 名) → 今年度担当教員の変更 (経過観察中)。 ・特許法 (7 → 14 名) → 廃止 or 大学院科目に変更を来年度検討予定。
【授業外学習の明示 (P30)】 昨年度 77.1 → 今年度 76.3 学生の主体的な学びを促すために、シラバスに授業外学習内容を具体的に記述することを教員に依頼予定。
【GPA が高い授業科目 (P31-32)】 昨年度 2 科目 → 今年度 7 科目に増加。教育プログラム改善の成果。
【GPA が低い授業科目 (P33)】 → 昨年度に引き続き該当科目なし。教育プログラム改善の成果。
【令和5年度の改善点】 → <u>改善済</u> 。 ・「コンピューター演習 1,2」→「データサイエンス演習 1,2」変更。 ・「マテリアルズ・インフォマティクス」および、「バイオ・インフォマティクス」開講。 ・「電子材料、無機材料化学、機能性有機化学、物性工学1、物性工学2、応用物性実験」 →「機能性材料1、2」に統合。 ・「キャリア基礎」必修 → 選択 ・「高分子科学2」学部 → 大学院 ・「感性工学」廃止
以 上

令和 5 年 12 月 12 日

学 長 殿

学部・学科名：薬学部・薬学科

教育プログラム責任者：和田 光弘

令和6年度に向けた教育プログラムの改善計画（報告）

このたび、本学科の教育プログラムを点検した結果、下記のとおり教育プログラムを改善することにしましたので、報告いたします。

記

教育プログラムの改善計画

（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの変更、授業科目の変更、授業内容・教育方法の見直し、教育付加価値の向上等自由にご記入ください。）

2024 年度に薬学部は完成年度に加え、改訂薬学教育モデルコアカリキュラム施行を迎えることに伴い、薬学部では 3P の全面的な見直し、およびカリキュラムの再編を行っている。
3P については、改訂薬学教育モデルコアカリキュラムにおいて薬剤師が備えるべき 10 の資質が見直されたので、これに応じて変更を行った。この他、変更の視点として

- ・薬学部の教育目標などとの関連性・継続性
- ・生涯にわたって目標とする新「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」への対応→6 年制卒業時に獲得する資質・能力の設定
- ・学習成果基盤型教育に沿った DP の表記
- ・DP→CP の関連性
- ・ポートフォリオ導入を見据えた CP の設定 などである。

一方、カリキュラムに関しては

- ・地域医療・行政・企業に貢献できる人材の育成→キャリアデザインの多様性を支持する選択科目の充実
- ・特徴的な臨床薬学教育体制の構築（アドバンスト臨床教育、多職種連携、へき地医療の充実など）の視点
- ・情報科目充実の維持
- ・キャリアデザインの促進につながる新科目の設置
- ・科目の連続性、積み上げ型となっていることなどを重視して作成を行った。

加えて R4 年度 FD 活動報告書において

特定学年での成績不振学生数の増加が指摘されていた。教員が組むべき視点として、特定学年での取得単位数の偏り解消が考えられ、上記カリキュラム改定ではこの視点に立ったカリキュラム改定となっている。

今後は

- ・新カリキュラムに対するカリキュラムツリーおよびマップの作製
- ・DP 達成を評価するルーブリックの作成
- ・学習成果の可視化を目指したポートフォリオの導入に取り組んでいく。

また 3P およびカリキュラムについても学部の関連委員会（教務委員会、カリキュラム委員会、薬学自己点検評価委員会および薬学自己点検評価実施委員会）で継続的に評価、改善していく。

令和 5 年 12 月 18 日

学 長 殿

学部・学科名：共通教育センター
教育プログラム責任者：堤 千佳子

令和6年度に向けた教育プログラムの改善計画（報告）

このたび、本学科の教育プログラムを点検した結果、下記のとおり教育プログラムを改善することにしましたので、報告いたします。

記

教育プログラムの改善計画

（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの変更、授業科目の変更、授業内容・教育方法の見直し、教育付加価値の向上等自由にご記入ください。）

教授方法・教育内容・手段等の点検及び改善に関すること

研究授業については特に新任の教員の講義の参考になるように、同じ科目を担当する教員を対象者とした。来年度は新任教員が加わることから、同様に実施する予定である。
アクティブラーニングの実施については科目の特性もあるが、運営会議等で促進について討議する予定である。

授業評価の実施に関すること

アンケートの回答率が良くないので、学生に回答を促すように働きかけるように留意する。
共通教育センター教員が担当する科目は全学の学生を対象とする科目も多い。その中で合格率を学科ごとに提示するのではなく、科目として提示する方が理にかなっていることを工学部運営会議で話したところ、全学科主任に賛同をいただいたので、2024年度からは修正を事務に依頼する。

教育課程及び授業内容の点検・改善に関すること

年度計画にあるように、共通教育センターとしてカリキュラムポリシーの作成を今年度中に行う。
その妥当性について2024年度に精査する。
学科から基礎科目について要望が出ているので、学科と共通教育センター、特に担当教員を交えた話し合いを実施するべきである。

教育課程及び授業内容の点検・改善に関すること

これまでの教育課程を振り返ったうえで2024年に新規科目や科目名の変更などを実施する。これによりリベラルアーツの充実を図る。